

自ら問い、自ら導く学生たち

井上 維

(いのうえ・まさむ)さん

歯学部
歯学科5年
水泳部

●井上さんは、父親、2人の兄とともに歯科医師という環境で育った。家族からの助言なども受け、中学時代から歯科への進路を考えていたという。現在、義歯や補綴に関心があるが、将来の分野はまだはっきりとは決めていない。「今は実習などできることにしっかりと取り組んで知識を身に付けていきたい」と語る。



井上さんは、3年次の後期から4年次の夏のシーズンが終わるまで主将を務めた。後輩たち、先輩たち皆が楽しく部活に取り組めるよう雰囲気づくりに配慮した。

「一つひとつの症例を突き詰めて考えられる
歯科医師になりたい」

全国大会を目指すスイマーから、初心者まで、幅広い目標を持った部員を擁する東京医科歯科大学水泳部。男子40人、女子40人の総勢およそ80人という大所帯で活動しており、医学科、歯学科、保健衛生学科、口腔保健学科と各科の学生が所属している。

夏場は、教養部のある国府台キャンパスのプールを利用し、冬場などは他大学や公共のプールなどを借りることで、年間を通して泳げる環境を確保。

練習の日程は時期によって様々だ。シーズン前の4月からプール開きの5月半ばまでは週2回、シーズンとなるプール開きから主要な大会、交流戦までは週に3〜4回、シーズンオフとなる9月以降は週に1回程度で練習が行われている。

多種多様な部員を率いて部全体を統括する主将は4年次が担う。歯学部歯学科5年次の井上維さんは2011年の

1年間主将を務めた。井上さんが水泳を始めたのは大学に入学してからのことで、高校生の頃も運動部には入っていなかった。水泳部への入部を決めたのは、初心者でも気軽に体を動かすことができ、なるべく大人数が所属する部を考えていたからだ。

「水泳部は、本格的に水泳をやっていた人から、25mを泳げない人までレベルはいろいろです。部員数も多く、学内だけでなく大会などを通じて他校とも交流できる機会が多かったので入部を決めました」

初心者だった井上さんだが、4年次に開催されたオールデントタル（全国の歯学部が集まる大会）では50m自由型で6位に入賞し、練習の成果を実感したという。もともと華奢な体つきだったが、体重は高校の頃より8kg増え、引き締まった体格に変わっていた。

現在5年次の井上さんは、本格的に始まった臨床実習に積極的に取り組んでいる。指

導教員の下、歯学部附属病院で実際の患者に接しながら歯科医療の倫理と実践の仕方を学んでいるのだ。

「実習では、義歯や詰め物などを作って患者さんに対して実際に治療を行っているます。先生方も夜遅くまで熱心に指導してくれるのでとてもありがたいです。また、学習面で分らないことなどがあれば、水泳部を通じて各学科の先輩や同級生に質問することで解決の糸口につながることも少なくありません」

これからの課題は、歯科の症例を一つひとつきちんと理解して、さらに突き詰めて考えていくことだという。

「臨床実習では、1人の患者さんに対して時間をかけてしっかりと診療することが可能です。水泳部で主将を務めたことで、物事を細かくきくと考える姿勢が身に付きまし。将来、一人前の歯科医師になるための能力を習得したいと考えています」